

令和6年1月 人権コラム

「人の世に熱あれ、 人間に光あれ」

タイトルの言葉をご存じですか？

これは、1922年3月3日、被差別部落の人々が差別からの解放を目指して創立した「全国水平社」の創立大会で読み上げられた宣言文の最後の言葉です。この宣言には、差別を受けてきた人々の差別からの解放への思いとともに、すべての人があらゆる差別を受けることなく人間らしく生きることのできる社会の実現を願う気持ちが込められています。

昨年はこの宣言からちょうど100年の節目の年でした。宣言から100年が経ち、私たちの周りにおける人権問題はどうなっているのでしょうか。ハラスメントやLGBTQの問題、コロナ差別など、さまざまな問題が人権問題として認識されるようになってきたことを考えると、人権尊重の意識が高まってきていると言えると思います。しかし、誰もが一人の人間として尊重される社会になったとは言いがたく、今なお多くの差別事象や人権侵害が後を絶ちません。部落差別を助長するような差別的な問い合わせをはじめ、インターネット上における差別書き込み、ヘイトスピーチ、社会的弱者への偏見や差別さらには学校におけるいじめ、職場での様々なハラスメントなどの人権侵害などが発生していることも現実です。

人権問題は、遠いところや昔の問題ではなく、私たちの身近にある問題です。私たちは、意識する・しないに関わらず、さまざまな「思い込み」や「決めつけ」などの固定観念を持っています。あるものに対して一度固定観念をもってしまうと、どうしてもそのイメージ通りに近づけようとし、それを正当化してしまいがちです。不合理だと分かっている、「昔からそうだから」「他の人もそうしているから」と放置していることはありませんか。このような態度が偏見につながり、さらに差別へと発展してしまいます。「ものごとを正しく見よう」「相手の立場に立とう」という姿勢が差別や偏見のない社会をつくる第一歩となります。

1月20日（土）、水平社博物館の館長を講師にお迎えして、市民人権講座を開催します。土曜日ではありますが、職員の皆さんもぜひご参加ください。



橿原市 人権講座

もっとあたたかい人の世を
～水平社創立の思想を未来へ～

令和6年1月20日（土） 13:30～
大久保ふれあいセンター